

第9回図書館基本計画策定委員会 議事要録

日 時 平成31年2月5日(火) 17時30分開会

場 所 中央図書館視聴覚ホール

出席者 委員7名

赤羽委員、大津委員、桂委員、金子委員、北本委員、船崎委員、福島委員

事務局12名

鎌田図書館長、柏倉吉祥寺図書館長、目澤武蔵野プレイス副館長、前田課長補佐、盛田プレイス課長補佐、森本課長補佐、秋庭係長、佐々木主事、須藤主事、西田主任山名様、高橋様(文化科学研究所)

内 容 1 議事

- (1) 議事録の確認について(資料1)
- (2) パブリックコメント結果について(資料2)

2 その他

配布資料 次第

第8回図書館基本計画策定委員会 議事要録(資料1)

第2期 図書館基本計画(中間のまとめ)パブリックコメント結果について(資料2)

【事務局】

定刻となったので開会する。

次に資料を確認する。資料が不足している場合は申し出ていただきたい。

このあとは議事となるので、委員長に進行をお願いします。

【委員長】

承知した。

まずは事務局から、議事録について説明を。

★議事(1) 前回議事録の確認について

【図書館長】

資料1をお願いしたい。

事前に送付しているが、この内容で確認・承認をいただければ、終了後に公開したい。

【委員長】

何かあれば意見、質問を。

(意見なし)

次の議題に移る。事務局より説明を。

★議事（２） パブリックコメントの結果について（資料２）

【図書館長】

第8回委員会での議論を踏まえ事務局で修正したものを正副委員長にご確認いただき、11月中に中間のまとめとして確定した。

これについて11月の教育委員会定例会議の文教委員会にて報告を行い、12月12日（水）から12月31日（月）まで20日間、パブリックコメントを募集した。計画案は各図書館と市役所7階の市政資料コーナー、市政センター、各コミセンに配布し、意見の提出方法は郵送、ファックス、メールとした。また、市報、市・図書館のホームページ、館内掲示のほか、市の公式ツイッター、フェイスブックにて広報を行った。

結果としては、メールによる提出が3件、ファックスによる提出が1件の4名からご意見があった。意見の内容は資料2のとおりである。ご意見欄の右に、ご意見に関連する「中間のまとめ」の部分を記載している。

ご意見の内容は、概ね計画案に記載のある事項が多かったように思われるが、これらの中で計画案に修正や追加を加えるべき、あるいは新たに記載すべき事項等がないか、ご議論いただきたい。

なお、以下、ご参考までに、「中間のまとめ」を教育委員会や市議会で報告した際に出されたご意見を紹介したい。

教育委員会の委員からは、全体的には図書館の現状に関する質問や要望が多かった印象である。具体的には、吉祥寺図書館の指定管理の状況、館内の警備体制、中央図書館の駐車場に大きい車両が入らない課題、ボランティア掲示の案内などがあった。また、開館時間が各館で異なる点はデメリットではなく、さまざまなライフスタイルの市民がいるのでサービスに繋がっている面もあるのではないかと、指定管理の導入について中央館は分館とは異なる考え方が必要では、課題解決・支援の具体的な内容とは、絶版資料の収集方法などについてのご意見や質問などであった。「中間のまとめ」の具体的な記載に対しては、16ページの職員数についても計算方法の注釈を付けたほうがよいのでは、20ページの有効登録者数のグラフの児童の年齢幅、児童・生徒の表記を統一したほうがよい等のご意見があった。

市議会の文教委員会でも、概ね現状確認に関するご質問、運営に関するご要望が多かった。吉祥寺図書館のリニューアル後の指定管理の状況、人材育成の現状、プレイスの駐輪場の待ち時間が長いのでブックポストを開館中に使えないか、ブックスタートの現状、郷土資料の充実への関心、指定管理者である生涯学習振興事業団との連携、除籍基準についての今後の取り組み、中央図書館の休日・夜間の開館時間延長はニーズがあるのではないかと、学校と図書館の連携についての課題等のご質問・ご意見があった。

これらも参考にさせていただきつつ、パブリックコメントの取り扱いについて評価・ご意見をいただきたい。

【委員長】

パブリックコメントについてご議論いただきたい。例えば文言修正が必要かどうか、あるいは追加すべきものがあるか。

本日が最終の議論で次回は確定したものになる。よろしくお願いいたします。

【委員】

パブコメや議会で質問があった事項等で、今後計画の文言修正を行う予定はあるか。

【図書館長】

議会や定例会でいただいたご意見に従って修正した点はあるが、大きい修正点はあまりない。本日、委員の皆様のご意見をいただければありがたい。

【委員長】

では、資料2のパブリックコメントの番号順に見ていきたい。まず1番、市内の方のご意見について何かあるか。

【委員】

これは委員会の中でも議論した点であるので、今のままでよろしいかと。

【委員長】

では、1番は「中間のまとめ」の中に考え方が概ね入っているので、このままとするという。それでは次の2番について。

【委員】

この方の意見がよくわからないのだが、三鷹市の図書館では、市内の図書館にない資料を三鷹市民がリクエストした際に、他の自治体の図書館から協力貸出するサービスがないのだろうか。

【事務局】

武蔵野市では、市内図書館にない本については他の図書館に協力貸出をお願いするサービスがあるが、それは武蔵野市民からのリクエストの場合のみで、他市の方についてはお受けしていない。この方は三鷹市民だが、ご自分の住まいの近くに三鷹市立の図書館が無い、武蔵野プレイスのほうが近いのでそこで三鷹市民のリクエストも受けてほしいというご要望のようだ。

【委員】

これはお互いさまで？武蔵野市民である私が三鷹市の図書館でお願いしてもダメなのだから。

【委員】

2番の意見をくださった方は、三鷹市の図書館にも同じサービスがあるということをご存知ないのでは。お知らせする方が親切ではないか。

【図書館長】

パブコメの返し方は計画によって様々だが、この方の場合、三鷹市の図書館が受けてくれることはご存じで、さらに武蔵野市の市民向けサービスを三鷹市民にも拡大してほしいというご要望だと思われる。

1番と2番は同じような内容について、違う立場からのご意見なので、まとめとしては1番と2番を一緒にして、取り扱いはこちら、という形で書いてはどうかと思っている。

【委員長】

では2番はそういう形で。次に3番について。図書館の快適性について。美しく清潔な知的環境空間が必要だというご意見。

【事務局】

3番だけテキストに囲みやアンダーラインがあるが、これは4番の下に注記したとおり原文のまま掲載しているためである。

【委員】

まず清潔に保つということは当然やっていくべきことと思うが、もうひとつ「美しく」については、特にこの方は「知を感じさせるような美しさ」とのことであるが、それを保つ、あるいはそのように改修していくには、どうしても財政的な支出が必要となる。そのためには、他の施設の改修は放っておいても図書館だけはそういう美しさを保っていくんだという市民全体の合意が求められる。

ただ、例えばスポーツをしている人たちはスポーツ施設を美しく快適に保ってほしいと考えるであろうし、他の施設も同様。

そうすると市の公共施設の全てについて、常に美しい新築のような状態を保っていくのは、現在の財政状況ではかなり厳しいと思われる。

可能な範囲でやっていくことはお考えのとおりと思うが、理念として基本計画に書き込めるかということ、ちょっと難しいかと思う。

【委員】

中央図書館2階のグループ学習室のテーブルは、数年前まではかなり悪戯書きがされていて不愉快な感じがした。苦情は言わなかったが、図書館のほうで自発的にクロスを掛けてくれて、悪戯書きが見えなくなった。そういう努力をしている点は認めたい。

2点目は、この方のご意見に有名な偉人の肖像画でもあればとあるが、三鷹駅前の中央図書館には太宰治のコーナーがあり、太宰にまつわるものが展示されている。以前にも話したこと

があるが、武蔵野市には何人も著名な作家が住んでいたもので、そういうコーナーをつくるのはどうか。中央図書館では毎月、書籍展示を行っているが、そういった中で地元作家を取り上げるのもよいかもしれない。

【委員長】

では、3番については、特にこのままでよいか。

それでは4番。ビジネスや読書の動機付けなどについてで、「中間のまとめ」に概ね入っている内容とは思われるが。

【委員】

私はこの意見には同感する部分が多い。「子どもだけでなく全年齢層に対して日常生活の中で図書館を利用する生活スタイルを提案できるのはないか」というのは私もずっと思っていたので。活性化に繋がるキーワードがこの方の提案にはたくさん入っている気がする。

これまで本を借りて読む場所だった図書館が、最近はその空間を使って人を集める場という意味合いも持つようになった。プレイスなどには特にそういう場が設けられている。黙って本を読んで自分の頭に知識を蓄えていくだけでなく、人々が集まって互いに情報交換し、コミュニケーションを取りながら、また新たに自分の知識を増やしていくという役割。

中央図書館は直営なのでオーソドックスな運営で、それはそれでドッシリとしていていいと思うが、この近辺に住まわれている方々はプレイスや吉祥寺より中央に来ることが多いであろうから、中央にも吉祥寺やプレイスのようなスペースや活動があればいいなと思っている人がいるのではないかと感じた。

【委員長】

4番のご意見の趣旨はよくわかるということで、「中間のまとめ」のどこかを訂正・加筆するような言及ではないということでよいか。

【委員】

それでよい。

【委員】

この方の意見は、基本的には全て「中間のまとめ」の中に網羅されていると思う。今後、各々の図書館が基本計画を元に具体的な活動をして行く際に参考になるご意見と思うが、基本計画自体をいじる必要はないと考える。

【委員】

パブリックコメントに対しての直接の意見になるかわからないが、私は毎月1回読書会を開いてもう4年になる。仕事を辞めてから、図書館に行って本をたくさん読んだが、何かつまらない。そういう時に、読書が趣味の仲間7、8人で声をかけて読書会を始めた。最初のうちはみんな面倒くさがっていたけど、そのうちそれぞれの人が読んだ本の感想などを意見交換する

ようになった。勉強するというより井戸端会議みたいなものだが、月に1回でも図書館でそういう場があって、本について好きなことを言い合えるのは楽しいし、本に出会えるきっかけにもなる。読書会のような場を図書館がちょっとでも手助けしてあげればいいかもしれない。

【委員】

意見の最後に、図書館関係の政策の枠にとどめず、武蔵野市を知的で上品な街として豊かにするよう図書館がもっと打って出よ、といったことが書いてある。

これは、「中間のまとめ」で一番足りなかったところでは、と感じる。ただの図書館にとどまらずもう一歩外に出てみようという精神が「中間のまとめ」に入れば良かったと思う。具体的にどこをどう直せとは言えないが。

【委員】

そういう精神は「中間のまとめ」には活かされていると私は思っている。蔵書の充実等々、今図書館が取り組んでいること、武蔵野プレイスの取り組みなどを見れば、現実には展開されているとわかる。フォーラムの基調講演でもお話があったが、他の自治体に比べても武蔵野市は非常に前向きにやっているし、4番目の方の要望に十分応えていると言えるのでは。私自身はとてもエンjoyしている。

【委員】

最後の「知的で上品なまちとして豊かにするような、市全体のまちづくりの重点戦略として図書館の充実化を強く進めて頂ければ」というのは、中間のまとめの38ページの「基本理念」の文言とまさに重なると、私は考える。単に読む楽しみ等を提供するだけでなく、市民と地域が読書で得た知によって地域活動に貢献したり、ひいてはまちづくりに活かしていくという、この基本理念そのものかと。

4番目の方の意見は5点あるが、2点目の「司書の役割についての周知も必要ではないか」は、施策の中で「レファレンス自体の認知度を高める」と書かれている。

そうすると、1点目の「子どもには動機づけ指導があるが、その他の年齢層に対してそういう必要性が無いのか」という意見と、3点目のいわゆる「企業との連携の可能性」について、4点目の「コミセンの資料も図書館で検索できるようにできないか」という意見。これらについてどうするか、ということかと思う。

【委員長】

コミセンの資料検索というのは…

【委員】

コミセンの蔵書も検索できるようにするためには、コミセン側でのきちんとした蔵書管理が必要となる。検索だけでよければいいのか、あるいは相互貸出等を行うのかにもよるが、いずれにしてもコミセン側の負担がかなり大きくなることが想定される。

コミュニティ活動の側面から、どこのコミセンがどういう資料を持っているかという情報提

供は市民に対して必要とは思いますが、図書館と蔵書情報を統一化するのは、ちょっと負担が大きいのではないかと。

【委員】

ふるさと歴史館も古文書など蔵書、資料を持っているが。

【委員長】

図書館とは別々の管理となっているのでは。

【図書館長】

「中間のまとめ」の中でも「役割分担をしていく」としている。ただ、それぞれの活動等がまだ整理できていない段階なので、連携する可能性をこれから探りたいと考えている。

【委員】

ふるさと歴史館は、イベントなども積極的に行っている。ぜひ連携を実現してもらいたい。

【委員】

ふるさと歴史館と図書館の管轄は同じ教育委員会だから。

【委員】

あそこは民俗資料や文化財とともにもうひとつ、行政文書の管理をする公文書館としての役割もある。その公文書のデータベースが膨大で、整理が進んでいないのが現状。それを含めて今後どうするのが検討課題である。

【委員】

武蔵野市の図書館で、市民が自主的に古文書を読む会などをやっていて、評判が良い。郷土を知る意味で、そういうことを続けていけば。

【委員】

残りの2つ、「動機づけ」と「企業との連携」について、ビジネスマンに限らずいろいろな職種が混在する吉祥寺の特徴を活かして、読書や交流する機会をつくるなどの図書館からの企画はどうか。それらはもちろんこの「中間のまとめ」の中に入っているとは思いますが。

全体を通してやっぱり気になるのは、図書館がいろいろなことをやっていることを知らえていないということ。情報発信という言葉は確かに計画の中に入れたが、その意味としては、デジタルなものを使って図書館のことをPRすることもあるが、むしろアナログ的な、図書館の活動を外にきちんと周知していく働きかけに関しての言及は大丈夫かな？と気になった。どうしたらもっと広く伝えられるか。それがホームページだけでいいかということ、多分違う。今後の詳細な検討での話にはなると思うが、もう一度考えていかねばいけない点だと思った。

【委員】

その点は55ページ「②本に親しめる環境の整備」の[50]～[58]などでも触れられているが。

【委員】

もちろんこれらの施策は行うとして、やっていることを伝えるのはこれからの課題と思う。図書館を業界全体としてPRしていくなかで、武蔵野ではどうしていけるか。注目されるポイントにもなると思う。

あと、パブリックコメントが4件というのは、こういうものなのかどうか。

【図書館長】

正直なところは、もう少し戴きたかった。

【委員】

一つひとつの内容はすごくいいが。

【図書館長】

一つひとつのご意見がかなり多岐にわたりボリュームがあるので、要素ごとに分割して掲載することを考えている。

【事務局】

前回の基本計画では8人から回答をいただき、その意見を要素ごとに分割して22件となっている。

【委員】

武蔵野市では、60歳以上を対象とした「いきいきセミナー」を年に2回開催している。私は4年前に参加して、そこで出会った人と読書会を始めた。

今度、他からも読書会をやりたいという声があったので、別途読書会を立ち上げた。月1回で参加は自由。最初は顔合わせ的に、ここ数年に読んだ本でぜひ人にも薦めたい本を1人5分ずつで紹介してもらおう。上手くいくかどうかかわからないが、本を通じて仲間作りができる。こういう会を図書館が音頭を取るのは無理だと思うので、いきいきセミナーのような講座をきっかけに広がればよいと思う。

【委員】

グループ学習ができるようなスペースは、吉祥寺にもプレイスにも、今のところあまりないのではないかな。

【事務局】

プレイスの3階には市民活動フロアがあり、そこで読書会は開催できる。読書会をやるには良い場所だと思う。

【委員】

中央図書館は、読書会に相応しい場所がグループ学習室のみで、ちょっと狭い。

【委員】

いま、大学では、コモンズスペースという共有できる空間が当たり前になっている。この流れが公共にも広がってきているので、中央図書館の改修にあたっては、そういうスペースを作っていくのはどうか。読書会のほか、グループで何か勉強会を開くといったことに多くの市民の皆さんが意欲的なので、ニーズはすごくあると思う。

【図書館長】

それでは、パブコメの1番と2番についてはお立場は違うが同じことについてのお話ということで、市民のサービスレベルを確保していく方向で考えている、計画の中ではここに記載している、という形でお返しをしたいと考える。

3番についても、清潔な環境を維持するという事は異論のないところなので、そのようにコメントし、既存施設の整備・改修としては異常箇所の発見などをやっていく、と書かせていただくのはどうか。

4番のご意見については、内容ごとに分けて、それぞれについて、図書館としての考えをお示ししたいと考える。

なお、一番右側は、今は「中間のまとめの該当部分」と書いているが、基本計画とする際には「取り扱い方針」といった項目名に変更するかと思う。

【委員長】

これらを次回の最終回の委員会の際に皆で確認するという事でよろしいか。

【一同】

(同意)

【委員長】

それでは、次の議題の「その他」について、事務局から説明を。

【図書館長】

年度が替わると計画を実行していくフェーズに入り、図書館運営委員会で目標や評価を行っていく流れになる。

これまでは年度が替わってから前年の評価をして、それから目標を立ててきたが、そうすると年度の半ばを過ぎてからその年度の目標を検討するということになるため、来年度はできる

だけ前倒しで進めたい。できれば4月早々には目標をお示しして検討していただきたいので、本日の委員の皆様が多くが運営委員であることから、次回の委員会の際に来年度以降の評価のあり方について、例えばこういう評価にしていきたいとか、こういうことができるようにしてもらいたい等のご意見をいただければありがたい。

【委員】

これまでのABC評価とは別の全く新しいやり方を提案してもいいのか。現在、他の図書館で、やはり評価をどうするか議論しているところもある。自分も関わっているが、図書館の評価は、見えるところ（数値）以外をどう評価していくのかなど、難しい点も多々ある。そういったことも参考に、次回までに間に合えば考えてみたい。

【図書館長】

今までの評価は、事業の箱の中から1つのものを取り出して、それができたかどうかでその年の評価を全て決めてしまうような側面があった。そういった細かい部分ができた・できないで絶対的にABCとしてしまうのもどうなのか、悩んでいる部分でもある。

何か参考になる事例があれば、ぜひ伺えればありがたい。

【委員】

「中間まとめ」63ページにもインプット・アウトプット指標の表があるが、インプット・アウトプット、さらにアウトカムをどうするのか。難しいが、現在のあり方を課題とっているのであれば、材料になるものを持ってきたいと思う。

【委員】

他の市でもこういった評価は行っているのか。

【図書館長】

武蔵野市のような方法でやっているところはあまり無いように思う。

【事務局】

従来は、図書館は目標設定や評価というものが馴染まないといったイメージがあったが、「望ましい基準」が24年度に改定され、評価や目標設定について努力義務して記載されたため、どこの自治体も、レベル差はあるとしても、意識はしていると思う。

【図書館長】

何年もかけてこの形になっていった経緯がある。

【委員】

武蔵野市の評価のあり方は、むしろ進んでいるという認識だ。

【委員長】

具体的に評価できるようにということで散々検討してこの形になってきたが、常に再考し続けてもいいかもしれない。

【事務局】

前回の策定委員会で次回の日程を決めたが、ご連絡したとおり、再調整のうえ2月26日(火)17:30からと変更となった。本日と同じ会場で開催予定なのでよろしくをお願いしたい。

今回は最終の委員会で、本日ご意見いただいたパブリックコメントの対応方針の文言の確認とともに、体裁なども含めて基本計画書としての最終の確認をお願いすることになる。資料は事前にお送りするので、ご確認いただきたい。

【委員長】

以上で第9回図書館基本計画策定委員会を閉会する。

以上